

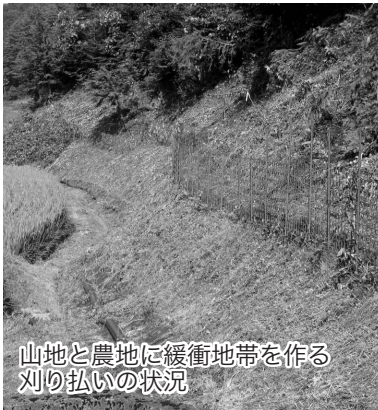
みんなて学習
守れる田畑

まずは地域に何が起きているのかをみんなで学習し、守れる田畑づくりをしましょう。

▽野生鳥獣の隠れ家となる藪や耕作放棄地がないか

▽田畑に放置されている野菜や収穫されない果樹など、エサとなるものがないか

▽山林と農地の間の草を刈るなど見通しを良くしているか



山地と農地に緩衝地帯を作る
刈り払いの状況



耕作放棄地は
野生鳥獣の隠れ家です

囲って、追って

次に行くことは地域を囲ったり追いかけることです。



地域ぐるみで防護柵を設置

囲う

▽トタンで囲う(隙間をなくす)

▽電気柵や侵入防止フェンスで囲う(電気柵に草が触れないようにしましょう)

▽テグスを張る(翼に触って飛び立ちにくくする)

追う

▽ロケット花火などで追い払う
▽獣道の草を刈るなど嫌がらせをする

このように地域ぐるみで、鳥獣の餌場としての魅力を徹底的になくすことが大切です。

最後に捕獲

市では約120人の捕獲隊員が、有害鳥獣の捕獲に従事しています。隊員のみなさんは市からの依頼を受けて、箱わなや足くりわな、または銃器により有害鳥獣を捕獲します。



捕獲されたイノシシ(Ⓐ足くりわな、Ⓑ箱わな)

被害の最も多いイノシシは捕獲頭数も年々増加し、昨年度は1174頭(前年比391頭増)にのぼりました。

鳥獣の捕獲には、捕獲に伴う危険や鳥獣の乱獲を防ぐために、狩猟免許・捕獲許可を受けた人に限られていますので、被害を受けた方は、農務課または支所基盤産業課までご相談ください。

鳥獣被害対策の最終手段は捕獲ですが、「みんなて学習・守れる田畑づくり」や「地域を囲った追い払い」も重要な対策です。

次のページで鳥獣対策の市の支援策について紹介していますので、ぜひ活用をご検討ください。

Topic

クマに襲われないために

昨年度、市に寄せられたクマの目撃情報は195件でした。特に夏場はクマにとって山のエサが不足するため、人里近くに出没することも多くなります。

クマに出会わないために

- 鈴やラジオなど音の出るものを身に付け、人の存在をクマに知らせる
- クマの足跡を見つけたらすぐ引き返す

○クマの目撃情報を、高山防炎ラジオや市メール配信サービスでキャッチする(下記欄外を参照してください)

クマの目撃情報と対応

市ではクマ目撃情報を受けた後、速やかに現地確認し、町内会、警察、市関係部局を通じて注意を呼びかけ、高山防炎ラジオ・メール配信サービスで広く情報提供します。

※クマの目撃情報は、農務課、最寄りの支所、または高山警察署までご連絡ください。

農務課／35-3141
高山警察署／32-0110